



本部本社間
申4号

「2024年度年末手当に関する申し入れ」第2回交渉

今回の交渉で会社が繰り返し回答していた言葉として…



業績を客観的に見る があります。

「客観的」とは？【出典：Goo 辞書】

- ①主観または主体を離れて独立に存在するさま
- ②特定の立場にとらわれず、物事を見たり考えたりするさま

その上でJR東日本の2025年3月期 第2四半期決算を見てみると
 単体営業利益⇒ 2025年3月期:1960億円 2019年3月期:2922億円
 確かにコロナ前と比較すると低いかもしれません…

しかしこの実績を見るとどうでしょうか？

単体:営業利益⇒対前年比409億円・126.4%の増加!(1960億円)
単体:純利益 ⇒対前年比322億円・134.4%の増加!(1258億円)

JR東日本における人件費で比較すると



2023年 1988億円

2024年 1997億円 (+9億円)

**9億円しか人件費を増やさなかったのに、
1年で322億円も単体純利益が増えた!**

「客観的」に見て300億円以上の

純利益増による大幅な業績改善を図れた!



「客観的」に見てコロナ前と同じ支給月数

(=年間6ヵ月)に戻すべきではないか!



※2019年度は夏季手当2.91ヶ月+年末手当3.18ヶ月=6.09ヶ月

2024年度は夏季手当2.7ヶ月⇒最低でも3.3ヶ月無いと年間6ヵ月になりません

**「客観的」に私たちの努力を評価しない経営姿勢を突破するため、
JR東日本で働く仲間の声を結集させ、満額回答を勝ち取ろう!**